

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月13日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社ファミリー
【英訳名】	FAMILY INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西條 徳三
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市中央区東千葉2丁目8番15号
【電話番号】	043(284)1111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 清水 貴志
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市中央区東千葉2丁目8番15号
【電話番号】	043(284)1111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 清水 貴志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 累計期間	第45期 第3四半期 累計期間	第44期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	10,190,520	10,104,801	14,083,445
経常利益 (千円)	440,265	495,365	694,611
四半期(当期)純利益 (千円)	226,404	331,451	395,262
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,387,297	1,387,297	1,387,297
発行済株式総数 (千株)	6,529	6,529	6,529
純資産額 (千円)	5,481,058	5,938,893	5,648,319
総資産額 (千円)	11,497,928	12,181,553	11,697,208
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	40.40	59.14	70.53
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	9.00
自己資本比率 (%)	47.7	48.8	48.3

回次	第44期 第3四半期 会計期間	第45期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額() (円)	0.54	19.57

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため、記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、世界経済の回復と為替の安定、トランプ効果継続による米国発の株高、国内では企業業績の回復など景気に持ち直しの動きがみられた一方、個人消費の回復の遅れや北朝鮮問題など地政学的リスクの高まりなどから未だ先行きへの不透明感が拭えない状況が続いております。

国内の第3四半期累計期間の新車販売は、前年同期比4.5%増の3,656千台となりました。登録車は無資格検査問題等により第3四半期の登録が伸び悩み1.4%増の2,360千台にとどまりましたが、軽自動車は前年同期比10.5%増の1,296千台と大きく販売台数を伸ばしました。

当社の属する外国メーカーの第3四半期累計期間の新車販売台数は、前年同期比3.3%増の225千台と順調に推移しました。

このような状況下、当社では、欧米10ブランドを取り扱うことができるメリットを最大限発揮し、お客様に最適なお車を提供できるように努めるとともに、不動産事業、発電事業による多角化経営により安定的な収益確保に取り組んでまいりました結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高101億4百万円（前年同期比0.8%減）、営業利益4億93百万円（前年同期比11.5%増）、経常利益4億95百万円（前年同期比12.5%増）、四半期純利益は3億31百万円（前年同期比46.4%増）となりました。

事業のセグメント別の状況は下記のとおりです。

(車両販売関連事業)

車両販売関連事業におきましては、輸入車各ブランド間による顧客獲得競争の激化は変わらず、また、国産車との競争もありましたが、ショッピングモール等での出張展示会の回数を増やすなど、新規顧客の獲得、買替への取り組みを積極的に展開しました。これにより、第3四半期会計期間（10月から12月）の新車販売が順調に推移し、サービス部門の売上も好調を維持しました。また、利益率の向上にも努めてまいりました。

その結果、売上高は、99億22百万円（前年同期比0.9%減）、セグメント利益は3億79百万円（前年同期比9.0%増）となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、本社階上、成田店、西船橋店、市川店に併設する賃貸マンションにおいて、入居率の維持・向上に努め、また、旧野田店跡地をスーパーマーケット運営会社へ貸し出したことによる地代収入も加わり、売上高は1億13百万円（前年同期比47.6%増）、セグメント利益は76百万円（前年同期比92.1%増）となりました。

(発電事業)

発電事業におきましては、成田太陽光発電所が順調に稼働しましたが、平成28年10月に館山太陽光発電所を株式会社ファミリー商事に事業譲渡したことにより、売上高は68百万円（前年同期比33.6%減）、セグメント利益は37百万円（前年同期比31.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ4億84百万円増加し121億81百万円となりました。これは、売掛金が1億49百万円、未収還付法人税等が1億30百万円減少した一方で、現金及び預金が1億8百万円、建設仮勘定が6億76百万円増加したことが主な要因であります。

負債につきましては、前事業年度末に比べ1億93百万円増加し62億42百万円となりました。これは買掛金が3億21百万円減少したものの、未払法人税等が1億9百万円、その他流動負債が179百万円、及び借入金が増加したことが主な要因であります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べ2億90百万円増加し59億38百万円となりました。これは、四半期純利益を計上したことが主な要因であります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,000,000
計	26,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,529,114	6,529,114	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,529,114	6,529,114	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成29年10月1日～平成29年12月31日	-	6,529,114	-	1,387,297	-	348,297

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 924,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,602,200	56,022	-
単元未満株式	普通株式 2,114	-	-
発行済株式総数	6,529,114	-	-
総株主の議決権	-	56,022	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権数10個)含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)ファミリー	千葉県千葉市中央区東千葉2-8-15	924,800	-	924,800	14.2
計	-	924,800	-	924,800	14.2

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、千葉第一監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	610,010	718,771
売掛金	472,168	322,491
商品	2,255,196	2,313,845
部品及び用品	81,185	111,974
販売用不動産	13,077	13,077
繰延税金資産	80,243	13,168
未収還付法人税等	130,281	-
その他	243,779	280,940
流動資産合計	3,885,943	3,774,269
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,038,305	2,008,223
機械装置及び運搬具(純額)	339,083	309,081
土地	3,968,815	3,386,252
賃貸不動産(純額)	675,931	1,239,155
建設仮勘定	344,980	1,021,385
その他(純額)	113,878	103,385
有形固定資産合計	7,480,993	8,067,484
無形固定資産	20,179	18,675
投資その他の資産		
投資有価証券	84,490	98,703
長期貸付金	36,957	33,150
差入保証金	83,478	83,482
その他	105,166	105,786
投資その他の資産合計	310,092	321,123
固定資産合計	7,811,265	8,407,283
資産合計	11,697,208	12,181,553

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	756,458	434,581
短期借入金	2,632,818	2,593,060
未払法人税等	-	109,996
賞与引当金	11,940	6,150
その他	467,629	647,594
流動負債合計	3,868,846	3,791,381
固定負債		
長期借入金	1,911,597	2,156,737
役員退職慰労引当金	40,542	42,722
資産除去債務	8,394	8,473
繰延税金負債	60,691	56,570
その他	158,816	186,774
固定負債合計	2,180,042	2,451,278
負債合計	6,048,888	6,242,659
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387,297	1,387,297
資本剰余金	815,014	815,014
利益剰余金	3,628,304	3,909,317
自己株式	200,842	200,850
株主資本合計	5,629,773	5,910,778
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	18,545	28,115
評価・換算差額等合計	18,545	28,115
純資産合計	5,648,319	5,938,893
負債純資産合計	11,697,208	12,181,553

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	10,190,520	10,104,801
売上原価	8,663,154	8,504,674
売上総利益	1,527,365	1,600,127
販売費及び一般管理費	1,084,884	1,106,694
営業利益	442,480	493,433
営業外収益		
受取利息	710	631
受取配当金	1,674	1,699
受取保険金	1,990	6,230
その他	5,046	4,287
営業外収益合計	9,421	12,849
営業外費用		
支払利息	11,637	10,917
営業外費用合計	11,637	10,917
経常利益	440,265	495,365
特別利益		
固定資産売却益	1,372	-
特別利益合計	1,372	-
特別損失		
固定資産除却損	17,854	11,026
固定資産売却損	382,644	-
減損損失	28,274	-
特別損失合計	428,773	11,026
税引前四半期純利益	12,864	484,338
法人税、住民税及び事業税	3,633	94,577
法人税等調整額	217,173	58,310
法人税等合計	213,539	152,887
四半期純利益	226,404	331,451

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	170,140千円	180,034千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	44,834	8	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	50,438	9	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	車両販売関連	不動産	発電	合計
売上高				
外部顧客への売上高	10,010,297	76,834	103,388	10,190,520
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	10,010,297	76,834	103,388	10,190,520
セグメント利益	348,427	39,946	54,106	442,480

(注)セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	車両販売関連	不動産	発電	合計
売上高				
外部顧客への売上高	9,922,780	113,421	68,599	10,104,801
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	9,922,780	113,421	68,599	10,104,801
セグメント利益	379,684	76,742	37,006	493,433

(注)セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	40円40銭	59円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	226,404	331,451
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	226,404	331,451
普通株式の期中平均株式数(株)	5,604,257	5,604,247

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月9日

株式会社ファミリー

取締役会 御中

千葉第一監査法人

代表社員 公認会計士 本橋 雄一 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 大川 健哉 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファミリーの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第45期事業年度の第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ファミリーの平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。